

河野君對井上博士の批評に就きて

加 藤 玄 智

ちよつと私も一言します。井上先生の御話で氣が付いたのでありますが、河野さんが日本書紀の當てた漢字に就て色々考があつたのを、井上先生の御批評もありましたが、河野さんの考へられたのも必しも無理でないやうに考へられる點もあります。他の方面からしてあゝ云ふ風な考へ方も大に面白いと云ふことを御參考に申上げて見たいと思ひます。

私の氣のついたのは「カミ」と云ふ言葉ですが日本の「カミ」と云ふ言葉は色々説明があります通り。日本書紀などを見ますと「カミ」と云ふ字は漢字の神と云ふ字が當てゝあります。外に或は神人とも書き神に人と云ふ字を附け加へて「カミ」とよんだり、或は聖人の聖と神を以て「カミ」と讀ましたり。或は甚しきに至ると人間の人の字だけに「カミ」と假名を振つた所がある、靈魂の靈の字を「カミ」と讀ました所もあります。それからして幽冥界の幽の字を「カミ」と讀ました所もある。斯う云ふ風に「カミ」と云ふ語に漢字を當てたのは宜い頃加減に當てたのでなくしてさう云ふ漢字を以てカミの意義を現はさんとした苦心の結果である。その結果漢字を當てたのであります。従つて日本人の古い時分に於て「カミ」

と云ふものをどう云ふ風に見て居つたかと云ふことは日本語の「カミ」に對する漢字は一つの註釋のやうなものである。日本人の「カミ」てふ考を説明するのに神の字もあります。神聖の意味もある。神人の意味もあるし又人間の人の字の意味もあります。さう云ふ場合々に應じて神人、神聖、靈、幽等の字が當てゝある、即ち之は日本人の「カミ」と云ふ考を漢字で説明したものとも見られる。

さうすると之を河野君の場合に應用して、「しらす」に對してあゝ云ふ漢字があてゝあるとすると、それは日本語の「しらす」と云ふ字をあゝ云ふ漢字で説明して居るとも考へられる。其一で「しらす」と云ふ概念を全部説明することは出来ずまいが、「しらす」と云ふ概念に當るあゝ云ふやうな漢字を色々用ひてゐると云ふことは矢張り「しらす」の内容の一方面を各の漢字が説明して居ると思ふ。此點で私は矢張河野君の考も一の眞理があると思ひます。丁度日本人の「カミ」と云ふ考を漢字で神、神聖、神人、神靈と云ふ風に書き、それに據つて「カミ」の概念の内容を説明する。寧ろ「カミ」の内容を現はさんとして日本書紀はあゝ云ふ字を用ひてゐるとも考へられる、「しらす」の場合も同じではあるまいか、只今河野さんの御考に對する井上博士の御説に對し、ちよつと氣の付きました儘を申し上げて置きます。

恭賦勅題田家早梅 西有洞仙

托根 猷 敏 避 趨 陪。 溪 北 溪 南 不 看 埃。

瞥見美人立荒圃。 暗從牆外洩春來。